

通信小海

あとは野となれ？

牧師 水草 修治

紀元前八世紀から七世紀、オリエント世界にアッシリアという巨大軍事帝国が出現した。オリエントを史上初めて統一した帝国である。アッシリアは、征服した国々の人々を強制移住・混血させて諸民族のアイデンティティを奪い去るうとした。

この危機の時代、南ユダ王国を治めたのがヒゼキヤである。諸国ごとくアッシリアに併呑され、都エルサレムが十八万五千人の敵に包囲されてしまったとき、王は神の前にひざまずいて祈った。「私たちの神、主よ。今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、地のすべての王国は、あなただけ

「今月の御言葉」この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。」
マルコ福音書十三章三十一節

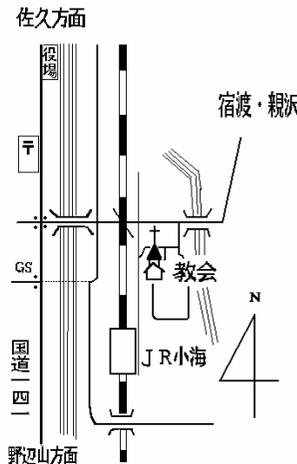
が神であることを知りましょう。」その夜、世界史上、謎の一つである出来事が起った。翌朝みると、十八万五千人のアッシリア軍は全滅していたのである。聖書は主の使いが彼らを打ったと記している。

このような経験を通して、生ける神を知っていたヒゼキヤ王であったのだが、晩年に大きな過ちを犯してしまう。なおアッシリアの圧力を感じていた時、ヒゼキヤはバビロンから遠来の使者を迎え、軍事同盟を結ぶのである。ヒゼキヤは使者にソロモン王以来蓄えられてきた金銀財宝をことごとく見せてしまう。時に、預言者イザヤはヒゼキヤ王に、主のことは告げる。「見よ。あなたの家にある物がすべてバビロンへ運び去られる日が出てくる。何一つ残されまい。またあなたの息子たちのうち、捕らえられてバビロン王の宮殿で宦官となる者がある。」

ヒゼキヤはイザヤに言った。「あなたが告

日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治
会堂・牧師館 長野県南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七
〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六
郵便振替 五三 六一六八三

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後七時半から八時半

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上・野辺山で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的な相談にも乗ります。

げてくれた主のことはありがたい。」彼は自分が生きている間は、平和で安全だろうと思ったのであるが、「後は野となれ山となれ」とは、名君ときこえたヒゼキヤ王としてはなんと情けない。

そういえば、かつて「世界の借金王となりました。」とわらって答えていた宰相は間もなく死んだが、今や、国の財政赤字は七百十三兆三千六百十億円に上る。今、景気は回復期に入ったというが、わが国の経済はなお薄氷上にある。

経済にかぎらず、私たちは後の世代に恥じぬ生き方をしたい。発行部数トップをほこる新聞の社説は、正月早々声高に「改憲！」を叫んでいる。憲法九条は世界の現状とあわなくなっていると、国民の大半が考えていると主張しているのである。戦後、新聞社は自らが国民を破滅的侵略戦争へと駆り立てた張本人のひとりであったことを反省しつつ再スタートしたはずであるのに。今は憲法九条という遺産は、ほんとうに我々が次世代に遺すべきものではないのかどうか、よくよく考えるべき時だ。

「野宿者炊き出し支援」

山谷地区で越年支援（04年1

2月30日付東京新聞 したまち版）

小雪が舞う厳しい寒さの中、台東区日本堤の城北労働・福祉センター前で二十九日夕、山谷地区の野宿生活者への越年炊き出しが始まった。写真。行政が休みの年末年始は、相談窓口になっている同センターの給食援護もなくなる。このため民間の支援団体「山谷労働者福祉会館」などのボランティアらが、朝と夕の一日二回の炊き出しを年明け四日朝まで続ける。同センター前には就寝所も設置。救急車への添乗なども二十四時間対応可能な態勢を整えた。

毛布 未使用切手が必要ですよ！

山谷農場事務局（藤田 寛）

電話090・1436・6334

フクオ42・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

干振替 一四・四五三七九六 山谷農場
一月 十一月の給食数 七万四百八十六食

カゼ予防に風門指圧

風門とはカゼの入り口のつぼ。ここを普段から五秒、四〜五回、指圧しておくこと、カゼ予防になります。面倒なひとは、使い捨てカイロをここに当てておくだけでも効果あり。

風門のつぼは、背中側、首の付け根にある骨の出っ張りから、下へ背骨の突起を数えたとき、二つ目の突起から左右外側に指幅二本分離したところ。

福音指圧教室

日時 一月十五日(土)

午後二時から三時半

場所：小海キリスト教会会堂
持ち物：バスタオル、タオル、くつした
無料です

あなたがたも

悔い改めなければ

そこで、イエスは彼らに話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそそれだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。また、戦争のことや戦争のつわさを聞いても、あわててはいけません。それは必ず起ることでです。しかし、終わりが来たではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、ききんも起るはずだからです。これらのことは、産みの苦しみの初めです。(マルコ福音書十五章五 八節)

昨年は大型台風が次々に襲来し、大地震があり、火山が噴火し、巨大津波がインド洋諸国を襲った。こういふ出来事を前に

どう考える生きるべきなのだろうか。主イエスは、終わりの時代、こういふ災害が頻発するとおっしゃった。

ある日、主イエスに「災難にあつた、あのガリラヤ人はパチがあつたのか?」と尋ねる人があつた。すると主イエスは次のようにお答えになつた。「そのガリラヤ人たちがそのような災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い人たちだつたとも思ふのですか。そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

ある人たちは災難にあつた人を見ると、「そうだ連中はパチがあつたんだ。」とか「前世の因縁だ」とか言つ。まるで自分が審き主であるかのように。また合理的な人は、「パチなどあるものか。偶然にすぎにすぎない。」といつたろつ。

主イエスは、ある意味でその災厄が神の与えたものであることを否定なさらない。しかし、主のお答えの刃は、むしろ、他人の災難について冷たい評論をする者たちに向けられる。「あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

まず私たちは、自分が生殺与奪の権をもつ神ではなく人間にすぎぬことをわきまえた。神を非難する口を閉ざし、他の人をさばくことをやめ、あわれみ深く行動したい。私たちは人を計るはかりで計り返されるのである。そして、自分に關しては「あなたがたも悔い改めないなら同じように滅びます。」という警告におののき、そして、きょう生かされていることを謙虚に感謝したい。

聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もつてよう。」と言つ人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いつたどのよつなものですか。あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまつ霧にすぎません。むしろ、あなたがたはこう言つべきです。「主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」とこのこととおり、あなたがたはむなし誇りをもつて高ぶつています。そのような高ぶりは、すべて悪いことです。

「幸福な家庭」

愛のむち

次々といたましい幼児虐待の事件が取り上げられる時代、親たちは躰についてびくびくしているのではないだろうか。しかし、適切な愛のむちはやっぱり必要なのである。適切な愛のむちがないから逆に虐待にいたってしまうのです。

子どもは二歳から三歳にかけて、個人差はありますが、反抗期を迎えます。反抗期以前の幼子というのは、真似ばかりしたがる模倣期にあります。このころは扱いやすい。ところが、この時期を過ぎるとあのかわいかった子どもが突然、「イヤ」とか「・・・しないの」とか自己主張し反抗しはじめます。あんなに素直なよい子だったのに、この子どもがうしちゃったのかしらと親はとまどいます。模倣でなく自立を求め

始めているのです。自分の行動の基準を見つけようとしているのです。

この時期、親は腹をくくって、三歳児との対決をしなければなりません。けっして子どもになめられてはならないのです。三歳児は、ママとボクとどっちが偉いのか？パパとワタシとどっちがえらいのか？という権威問題に決着をつけるために挑んで来るのです。もしママ、パパが三歳児に負けてしまうと、三歳児は自分が王様であることを確認するために、図に乗ってつきつきに無理難題を要求してくるヒトラーになります。そうやってからでは、親は感情的になり、小さなヒトラーに激しい虐待をくわえてしまうことにもなりかねません。

暴君になることは、三歳児にとって最も不幸なことです。やがて保育園に行き、小学校に進み、中学校へ、高校へ、社会へと出てみると、だれが彼のことを王様としてはみなしてくれませんか？その子は、ただのわがまな嫌われ者になってしまっただけです。

まず、**三歳児の主張が、正当な主張で**

あり態度であるか、それとも、親の権威をあたっているのかを見分けることが大事です。「のどがかわいた」という自然にかなった正当な要求ならば、よく聞いてやる。けれども、「のどがかわいた」というので水をあげたら、「こんなものいらぬ！」と言ってコップをひっくり返すならば、それは、権威をあなどっているのです。しっかりと叱るべきです。子どもしたことだから仕方ないのではなく、子どもしたことだから、ちゃんと叱るのが本当の愛です。

そして、叱るなら、その子が心からごめんなさいといえるまでつきあう覚悟が必要です。中途半端だと反抗心を育てるだけです。子どもの個性により、ことばだけですむ場合もあるでしょうし、安全な方法で痛みを与えることが必要なこともあるでしょう。ちゃんとごめんなさいが出来た子は、親にだっこしてほしいというサインを出しますから、ぎゅっと抱っこしてあげましょう。これは親にも子にも幸せなときです。

「あからさまに責めるのは、

ひそかに愛するのにまさる。」 箴言二七五